

The Akita University Post



AUPブログ
絶賛更新中!

Wednesday, March 14, 2012 第16号



発行 AUP 秋田大学報道局

主筆 菅原 成美

編集デスク 佐藤 禎晃



変わりゆく学生街の姿
吉岡理事・副学長退任
学生のプロデュースする特産品
大学の除雪事情
秋田百聞～BB秋田期待の新鋭～
秋田大美人開催

変わりゆく手形

秋田大学生にとって最も身近といえる手形地区。区画整備にともなう移転や閉店が相次いでいるが、新たにオープンした店舗もある。手形をにぎわせる2店舗と、長年秋田大生の様子を見てきた1店舗にお話をうかがった。
(和田 陽佳)

ボナペティ・パン工房 ボーナ

今年1月、以前から大町で愛されているパン工房ボーナの手形支店がオープンした。大学付近にはパン屋がなかったこともあり、今回手形に出店を決めた。店内にはパンの良い香りが漂い、シンプルなフランスパンから野菜や肉をはさんだサンド、クッキーまで豊富な商品が並ぶ。

商品は毎日大町店で焼いているもの。一日に何度か手形店に配送している。スタッフの方々はできるだけ焼きたてを提供できるよう、売れ行きを見ながらこまめに連絡を取っている。

他店ではパンの具材として業者から購入したものを使用していることがある。しかしボーナではサラダ・クリーム・燻製などさまざまな具材をすべて手作りで提供している。

支店を開く際に大きな宣伝はしなかったが、徐々にお客さんが増え、今では学生や教職員の姿もみられるという。この日もお店はにぎわいを見せていた。「大町店と比べると



表面はパリパリ、中はふわふわ、という食感が人気の通町ジェンヌ。マーガリンが練りこんであり、食用にもそのままでもおいしい。

営業時間
10:00-18:30 (パン売切れまで)
定休日 日曜日・祝日
TEL 018-836-0122



と内装やBGMなど雰囲気は落ち着いていますが、学生の方にも気軽に立ち寄りやすいですね。みなさんのご意見も取り入れたいと思いますので、お聞かせください」とスタッフの方は語る。

手形店では、パンを選ぶながらカフェオレを無料で楽しめるサービスがある。ゆっくり選んでもらえればという気遣いだ。急いで買うコンビニの食事は便利だが、たまにはあれもこれもとのんびり悩みながら選んだ、こだわりのパンを味わってみてはどうか。

モーン

大学からファミリーマーケットへ向かう細い道の途中に、ジャズ喫茶モーンがある。昨年6月にマスターの工藤賢一さんが自宅を改装して開いたものだ。

高校時代に友人の兄のレコードを聴いたことがきっかけでマスターはジャズに出会い、衝撃を受けた。それ以来興味でLPレコードを集めつづけている。今年選定を迎えたマスターのコレクションは1万枚以上になるそうだ。

10年ほど前からジャズ喫茶を開きたいと考えはじめたマスター。一番はジャズの魅力を多くの人に伝えたいという理由からだが、出身である秋田や大学生に対する思いもあった。「秋田が過疎化し、若者の集まる場もなくなっていく状況をそのまま見ているのか。自分たちの若いころは、ジャズ喫茶も全国にあり、若者の遊場が多かった。今はなかなかそういう場がないかもしれない」と語る。

オープンして以来、モーンでジャズを聴くために能代市から通っているお客さんや、はるばる東京からやってくる方もいる。だが、大学生はまだまだ少ないそうだ。マスターは「日本では学校の教科書でジャズやブルースを習う時間がないと思うし、ジャ



「白人がクラシック音楽を発明し、かたやジャズ・ブルースは黒人によって発明されたもう一つの人類遺産。世界中の老若男女に愛されている音楽です」

営業時間 モーニング AM 8:30-10:00
アフタヌーン PM 1:00-5:00
イブニング PM 7:00-11:00
日曜日 PM 1:00-5:00
定休日 月曜日・毎月最終日曜日
TEL 080-2808-6881

ゑびすや本舗

秋田大学生なら知らない人はいないであろう、手形通りのカラオケ店エビカラ。その隣のバー、ゑびすや本舗。この2店舗を経営し、長年学生の姿を見てきたマスターの高橋寿夫さんにお話を聞いた。

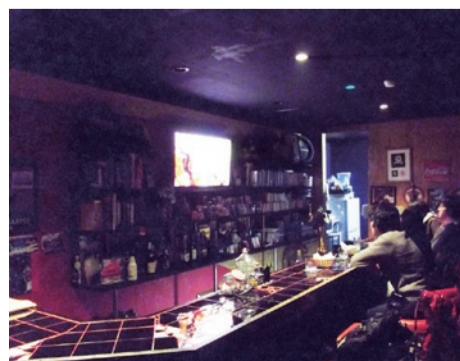
マスターは秋田県出身で、実家は東通にある。東京の大学に進学し、仙台に就職するなどしばらく地元を離れたが、縁があつて秋田に戻ってきた。

中央通りに2002年に開業した。マスターは「秋田県出身で、実家は東通にある。東京の大学に進学し、仙台に就職するなどしばらく地元を離れたが、縁があつて秋田に戻ってきた。」

マスターは「秋田県出身で、実家は東通にある。東京の大学に進学し、仙台に就職するなどしばらく地元を離れたが、縁があつて秋田に戻ってきた。」

営業日 不定休
営業時間 19:00-
TEL 018-837-5677

(写真) 大学生の他に卒業生なども姿をみせ、さまざまな交流がうまれる。



店。手形の商店街がさびれてきたことや知人の紹介があつたことから、翌年手形に移転した。当初は趣味のオークションを事業にしようと考え、学生が卒業時に不要になったものを引き取って売って、出品の代行業などを行っていた。その後移転にともない、現在はバーとカラオケ店の形態となっている。

カラオケ店では多くの業務を学生にまかせ、アルバイトのシフトも自分たちで組ませるなどしている。開店当初の学生の様子をうかがうと「何か問題があれば自分たちで話し合いをもうけたり、忙しくなりそうなのはシフトの入っていない学生が遊びに来て、混むと手伝ったりしていた。今はそういう学生同士の関わり合いが少なくなってきた」と話してくれた。

バーに来る学生も多いが「自分のことは詳しく話さない子が多くなったように思う。たとえば就職活動のことや、身近な先輩に聞くというよりは、インターネットで情報収集しているのかな」とマスター。

確かに自分も含めて若い世代は、通信技術が発達した分、直接的な人との関わりが減ってきているのかもしれない。そんな中で、マスターのように学生を身近なところで見守ってくれる大人はありがたい。学生街である手形にはそんな存在が多い。

バーで偶然隣り合った人やマスターと交わす会話。家から一歩踏み出して見つける、思いがけない人との関わりは、自分の新しい世界を広げてくれるのではないのか。

私

私もついに就活生になった。春休みを利用して、企業説明会や1次面接をこなしていく日々であるが、少し心に引つかかることがある。

我々就活生は、「就活」という言葉に踊らされすぎではないだろうか。本来は、つきたい職業があるから「就活」を行なうものだ。しかし最近私は「就活」のために「就活」しているのではないかと感じることが多い。

エントリーシートの書き方、面接の仕方、自己分析・・・最近これらを取り上げた本が飛ぶように売れているという。たしかに、初めてエントリーシートを書く場合や、面接をあまり経験したことがない人には心強いものである。だが、こういった本の著者は何十社も闇雲にエントリーしていたり、自称就活事情研究家であつたりする。

就活で一番必要なのは、その職業に就きたいという強い意志だと私は思う。勉強量が足りないと思うなら、エントリーシートの書き方を覚える前に今からやれば良いし、不安で仕方がない時は、少し落ちていくモチベーションを上げていく方法を考えれば良いだろう。

誰かと同じ様に生きてきた人間など、誰ひとりとして存在しない。もっと自信を持ってエントリーシートや面接に望んでみてほしいと思う。
(佐藤 禎晃)

AUP顧問 吉岡理事退任

本学理事・副学長の吉岡尚文先生（法医学）の今年度の退任が決まった。先生は1976年に秋大医学部講師となつて以降、36年にわたつて秋田の医療や学生の指導支援に尽力してきた。また、我々秋田大学報道局（AUP）は創設2年目から、顧問という立場で多大な指導、助言を頂いてきた。

秋大の学生について印象を伺うと、「企業の方にも、真面目によく働くと評価しているのだから、勉強をして良い人材に育ってほしい」と眼差しはやさしい。大学は就職の数字を上げるよりも、学生の総合力を高める必要があると考える吉岡先生らしい答えだ。その一方で、「昔の学生は教員を良い意味でうまく利用していた。今は質問などに反応がなく、学生全体としてまとまった雰囲気無く元気を感ぜない」と先生は言う。昔は喉が乾いたと言って研究室を訪れ、暗にビールを飲みたいと催促されたこともあったように、長く学生を見てきた中で現在の学生に必要なものを示した。

AUPの活動については、学生新聞は積極的に大学全体あるいは他学部の情報がわかる



吉岡 尚文（よしおか なおふみ）理事・副学長
1945年新潟県生まれ
岩手医科大学大学院博士課程法医学専攻修了
内科医を経て、
1976年秋田大学医学部講師
1978年同助教授
1989年より同教授
2005年から2度にわたり副学長に就任

仙北市の特産品をプロデュース

2月23日、「地産地食マッチング交流会」が仙北市西木温泉クリオンで開かれた。関係者や地元の方々80人が集まった会場では、地産地食の促進や地元の食材を県外でも周知させようとするプレゼンテーションが行われた。主な食材は、仙北市で生産された花豆や米。そして、それらをさまざまな工夫を凝らして加工した花豆チョコや米粉パン、いぶり漬けの吟醸和え等

の媒体であり、秋田元氣プロジェクトやミスコンテストの開催は学内の活性化につながっているとの評価を頂いた。今後は先生にご指摘いただいた定期的な発行に向けて、スポンサーの獲得に動くよう努力していきたい。

また、吉岡先生は秋田県でいち早く自殺問題に関心をもち取り組んできた。自殺という言葉が、新聞紙上に出るのもはばかられていた時代だ。現在は相談窓口がようやく増え、自身の活動の成果がでてきたのだろう。現在でも自殺者の多い秋田県において、この流れは継続していかなくてはならない。6月には先生の所属している温泉医療関連の学会会長としての仕事がある。まだまだ忙しい日々を送られるようだ。

（濱田 俊太郎）

提案。デスク佐藤の考える キラキラの キャンパスライフ！（仮）

有志代表の政策科学選修3年竹田健太郎さんは「一年間ルバーブに関する活動をやり通すことができ、満足している。最終的に交流会に参加することで、企業・地域の方々に評価してもらえたのは今後につながるのではないか。お世話していただいたハートハープの浦山さんに『君たちのおかげで商談が成立したよ。ありがとう』と言ってもらえたのが一番うれしかった」と述べている。

私がこの大学に入学してからまる3年が経ち、キャンパスの様相もすっかり変わった。数年に渡って行われてきたキャンパスの改修工事が佳境をむかえ、以前と比べもの



（写真）プロジェクトの成果を発表する一同。

プロジェクトの最新情報
ルバーブろぐ <http://d.hatena.ne.jp/rhubarb2011/>

地域に根を張る大学の一員として、このような活動には力を入れていくべきだ。学生の斬新なアイデアや行動力を地域に反映し、活力の薄れる秋田のパワーの一部を私たちが担うことができれば幸いである。

（関 駿介）

この新聞が発行されている頃には、新年度がすぐそこまで来ているだろう。今度入学してくる新入生諸君に、「この大学、つまらないな」と感じさせてはいけない。この壮大な計画はあくまでも「計画」の段階であり、まだ申請や許可を取っておらず、具体的な運営体制も決まっていない。しかし私は、今こそ学生自らキャンパスの景気付けのために立ち上がり、行動すべき時期であると確信している。

（佐藤 慎亮）

秋田大学医学部剣道部

秋大医剣は毎週火・水・金の19時から手形の剣道場で活動しています。初心者も経験者も一丸となって日々稽古に励んでいます。全学の剣道部も同じ場所で活動していますので、剣道に興味のある方はぜひ見学にいらしてください。

軟式野球部

私たち軟式野球部は土日月の週3回楽しく活動しています。部員の中には野球を高校までやっていない人も多いため、あまり野球をやったことがない人も興味があるかもしれません。ぜひ気軽に見学に来てください。野球が好きなマネージャーも大募集です。一緒に全国大会目指して楽しく野球しましょう。

全学弓道部・医学部弓道部

全学弓道部は各大会に向け、一本でも多くの的中を出すべく精力的に活動しております。医学部弓道部は医学部生のみで構成され、時間帯をずらして練習しています。手形キャンパス内、北西端にある道場はいつも活気に満ちています。

JAZZ研究会

こんにちは！JAZZ研究会です！
私たちは週4回、本道キャンパスのサークル室で練習しています。主な活動は年に3回のライブや学祭への参加、たまに営業に行ったりもします。どんな楽器でも大歓迎☆ぜひ部室に来てください^^

少林寺拳法部

我々少林寺拳法部は、毎週木、金に体育館等を利用して練習に励んでいます。少林寺拳法は他の格闘技と比較して護身的な色合いが強く、女性も多く所属しているため、秋田大学でも男女問わず多くの方が所属しています。少しでも興味のある方は是非ご連絡ください。

水泳部

私たち秋田大学水泳部は全学と医学部が一緒になり練習を行っています。部員は約60人で大学から始めた初心者から本格的に水泳をやってきた人まで様々ですがとても仲良くやっています!!
水泳が好き、少しでも興味のある方大歓迎です!!入部お待ちしております!!

部活& サークル紹介

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。歓迎の意を込めて、今回はいろいろな部活・サークルからコメントをいただき、掲載させて頂きました。今後のサークル選びの参考にして頂けたら幸いです。

アメリカンフットボール部

アメフトは、激しいぶつかり合いのイメージが強いですが、実際はそれだけではありません。体格に関係なく、スピードがある、キャッチが上手、蹴る事が好きなど、一つでも得意な事があればそれを武器にして戦う事が出来ます。新しい事にチャレンジしたい人は、是非練習を見に来てみませんか？

サッカー部

秋田大学サッカー部は、現在プレーヤー22人、マネージャー9人の合計31人で活動しています！今年度は、東北地区大学サッカーリーグ「1部」で戦います！1部でも勝てるチームを作り、残留することを目標に頑張っています。少しでも興味のある方、グラウンドで待っています！ブログもやっています。

秋田大学祭実行委員会

私たち秋田大学祭実行委員会は、毎年10月下旬に開催される秋大祭の企画と運営を行う団体です。昨年は、元横綱「曙」をお招きしてプロレスリングを行ったり、ステージでの企画などを運営したりしました。新年度も私たちが主体となり、大学祭を盛り上げていきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします！一緒に企画し、実行しましょう。

冬来りなば、春遠からじ

—秋田大学の除雪事情—

立春を迎え、春の足音が近づきつつあるが、未だ雪深い秋田。この冬は強い寒気が日本列島を北上している。各地では最低気温、最深積雪を更新し、雪による事故、災害が多発している。秋田市では除雪予算が追加で組まれ、県内でも昨年の豪雪に匹敵する冬が日々過ぎている。そこで今回は雪国秋田、意外と知らなかった大学の除雪事情に迫ってみた。

計画的な除雪

まず向かったのは施設管理課。ここは駐車場の除雪に関する窓口になっている。「除

雪は今年から計画的に行うようになりまして」と担当者。なんでも昨年の豪雪によりこれまで大学側で行ってこなかった除雪を今年から外部業者に委託することになった。それが「秋田大学手形地区職員駐車場利用者の会」という組織による除雪である。学内に5カ所ある駐車場を使う際に料金を一括徴収し、それを除雪費用にあてるといものである。午前2時の段階で15センチの積雪が確認されると除雪車が出動する。今年初めての運用だが、年末年始の大雪などで出動回数が多い。陸上競技場の横にある第5駐車場にはよせられた雪が山のよ

うに堆積しているのが確認できた。

ローダーによる除雪

次に向かったのは一般教育棟に近い駐車場、敷地内にある車庫だ。ここに大学構内を除雪する重機が格納されている。しかし重機は通称「ローダー」と呼ばれている一台のみ。この機械一台で朝5時から北門から南門までの道、正門から東門までの道を除雪する。さらには附属学校の周囲の保戸野キャンパス、男子寮や女子寮にもこのローダーで除雪へ出向くこともあるようだ。除雪は降雪時でも凍りだすが、凍って厄介にならないように雪どけの際にも行う。大学構内には街灯や自転車置き場などが雪に埋もれているため「除雪には神経を使う」と担当者は笑う。

職員総出の雪かき

最後に向かったのは総務課。職員によると来客が多い大学本部の玄関前は職員が日替わりで除雪しているとのこと。この除雪に関して正門から続く木道は、実は職員の善意によって行われていることもわかった。つまり職員が丸となって除雪しているのだ。またこの時期の木道では企画広報課の企画でミニかま

（写真）2月14日から期間限定で作られたミニかまき。企画広報課の企画によるもので、学外からも好評だという。夜にはライトアップされ、多くの人を楽しませた。



くらが両側に設置され、見る者を楽しませている。

他のキャンパスでは

一方医学部のある本道キャンパスでは、病院があるために除雪は必要不可欠。そこで広大な駐車場をもつことから、駐車料金内に除雪費用を設定し業者に委託した除雪を行っている。出動のめやすも積雪8センチと、こまめな除雪で患者に支障が出ないように気を配っている。

各所で聞かれた「今年は去年よりも雪が多い」の声。市内どこを見渡しても風の強いなかスコップを片手に雪よせに精を出す人の姿がある。先ごろ気象庁の発表した東北地方の3カ月予報ではこの厳しさは3月まで続き、4月からは晴れの日が多くなるとのこと。

（畠山 昂大）

学びは”つながり”をつくる？

アキタ朝大学がおもしろい

は50名近くの人々が集まっている。参加者は地元企業の社長から学校の先生、県議会議員、農家、大学生など職業年齢、性別様々だ。

朝一番の授業は学生の集まりが悪いことが通例だが、アキタ朝大学ではそのようなことはないらしい。休日の午前9時30分、おしゃれな飲食店を教室に行われた「授業」に

アキタ朝大学とは、世界中の『秋田人』たちが学び、対話し、つながる「場」だという。今回はあきたまちなか大学との共催で「ますます自然エネルギー×秋田のポテンシャルに気付いたらやっ！授業」というタイトルがつけられている。「地球環境」や「地域科学」といった硬さは一切感じさせないが、授業は真剣なもの。4、5人のグループを作ったワークセッション形式で、講師として招かれた研究者に積極的な質問が飛んでいた。秋田大学医学部4年の学生は「地域発の可能性を感じた。大学でも風力発電ができれば」と語ってくれた。



アキタ朝大学ブログ
<http://tarolove2eat.blog70.fc2.com/>

アキタ朝大学のおもしろい点は、「秋田」というキーワードによって「ゆるいつながり」を作り出しているところだ。硬い勉強会という形ではなく、誰でも参加しやすい雰囲気になっている。

自身の経験を踏まえて金澤さんは、いろいろな人と知り合うことが何か新しいことを学ぶチャンスであり、刺激になると考えている。

「自分の知っている小さな範囲で、これからの人生を決めてはいけない」
会ったことの無いような人と知り合うことは、自分の枠から飛び出すことにもつながる。

（濱田 俊太郎）

AUP通信

お一回おレポート、お本、ご紹介する。オーストラリア、居酒屋、幅広い。AUPの記者たちが毎回届ける。AUPの記者たちが毎回届ける。AUPの記者たちが毎回届ける。

最近、会話を苦手とする人が増えていると聞く。私も初対面の人と話すとき、大勢の人の前で話すときなど困ってしまう。普段、友人との会話では、思いっけり楽しめる私であるが、後者のような場面ではどうしてもあがってしまう。うまく話せない。就職活動中、こうした自分を改善させようと手にしたのが福田健著『人は「話し方」で9割変わる』（リュウ・ブックス アステ新書）であった。

普段会話を楽しめる自分が、なぜ初対面の人とはうまく話ができないのか。本書によるとそれは、会話をしてもうまくいかないの思考がつかまどっている

という。なるほどと思った。面接官に、こんな自分の話をしているのか、もっと深い事を話さなければならぬ、会話をすべしと考えることになってしまう。

また会話はキャッチボールである。そこでは「聞く」とが大切。私は面接の際に、考えていた答えを述べては満足し、そして次に来る質問にばかり集中していた。面接官のコメントも聞かず、話を聞くということができなかったことに気がついた。

思い込みや先入観にとらわれていたら、話は聞けなくなってしまう。頭と心をしっかりと、人の話をその通り聞き取る力を磨く。とにかく心も頭もやわらかくすること。聞く力が伸びれば、会話上手の道も開けるのだ。

この本を読むと、面接などの際の会話力だけでなく、日常の会話においても自分の欠点が多くあることに気づく。そして、本書で学んだことを実践してみる。何気ない会話でも、いつもとは違った言い回しで答えてみる。すると、自然に話が盛り上がりつつあるのではないか。

会話は空気のようなもの。なくてはならないものだと思う。大学生活の大事なイベントである就職活動。面接のコツなど、さまざまな本が出てくるが、まずは自分の「会話力」、「話し方」について、考えてみてはどうかだろうか。そして、本書を手にしてもいい。あなたは話し方で9割変わるのだから。

（小坂 麻理）

AUP
AKITA Univ. Press

AUP Photo Library.



凛とする。弓道場にて

(佐藤 禎見)

AUP INFOMATION

第77回 日本温泉気候物理医学会 総会・学術集会

テーマ：「地球のめぐみー温泉の安全な活用を科学するー」

期日 2012年6月8日、9日

会場 秋田県仙北市民会館

連絡先 会長 吉岡 尚文

Email: onki2012@gipc.akita-u.ac.jp

AUP 秋田大学報道局 新規メンバー募集!!

年数回の新聞製作、極上チャンネルのムービー制作、ミスコンの企画運営、各新聞社への寄稿、雑誌制作などを行っています。文章を書くのが好きな人、写真を撮るのが好きな人、イベント運営をしてみたい人、編集作業をしてみたい人を募集しております。興味のある方は、ぜひ下記へご連絡ください。



連絡先 e-mail: aup@live.jp

※メンバーは5人だけではありません

秋田百聞

「楽しさは必ずむすぶスポーツ王国」と銘打ち、スポーツ立県を目指す秋田県。県内で活動を行うチームの中で、今回はブラウブリッツ秋田の若手選手に注目したい。

こんな言葉がある。「夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ。」この言葉を聞いた瞬間、自分ほどこんなものにもなることができないと思っていた。しかし、次第に現実が人生に迫ってくる。13歳のハローワーク公式サイト内「なりたい職業ランキング」では、プロスポーツ選手が常に上位である。その中でもプロ野球選手とプロサッカー選手が人気を二分しており、近年ではプロサッカー選手を望む子どもが多い。その狭き門に挑戦する一人の大学生を紹介した

2012年シーズンからブラウブリッツ秋田(以下、B秋田)に加入した桐蔭横浜大学の土屋健太(23)選手は、左サイドを主戦場とするMFだ。169センチ、60キロとスポーツ選手としては小柄な体格である。しかしながらU-15日本代表候補、秋田商業高校での全国高等学校サッカー選手権大会出場、大学時代の関東リーグでの活躍等、次々にキャリアを積み重ねてきた。秋田Bの横山監督は「小柄だが、利き足である左足でボールタッチ、キックはいい」。



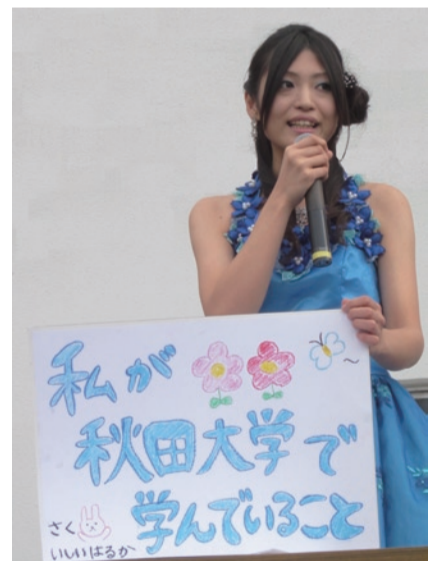
土屋 健太(つちや けんた) 選手
1990年1月26日生まれ
秋田県秋田市出身

いものがある。スピードもあるし、攻撃のアクセントになるだろう。右サイドでも試してみたいと評している。チームメイトからも「ツツチー」と呼ばれ、早くもチームに溶け込んでいっているようだ。そんな土屋選手がB秋田を選んだきっかけは、高校3年生の時の選手権大会だ。神戸科学技術との対戦は延長の末、PK戦で土屋選手が外してしまい、秋田商業は一回戦で姿を消すことになった。「サッカーで秋田を盛り上げるのができなかった。将来は秋田でサッカーをすることで地元を盛り上げていきたい」その思いが土屋選手を秋田でプレーさせるきっかけになった。将来的な目標はB

B秋田をJリーグへと昇格させ、自身もJリーガーになることだ。しかし、当面の課題はフィジカル面。小さな体格を補うために背筋を中心とした体幹トレーニングに余念がない。地元に戻ったということもあり、のんびり落ち着いて過ごしているようだ。「先週のオフにはおばあちゃんの家に行きました。この時期大変ですよ」と笑顔で話してくれた。幼い頃からのサッカー選手になりたいという夢を叶えた土屋選手の活躍と、B秋田の躍進を願ってやまない。

(関 駿介)

恒例のミスコン開催



昨年10月22日の秋田大学祭初日、学園祭の目玉であるミスコン「秋田大美人」(主催:秋大祭実行委員会 共催: AUP) が開催された。4回目を迎えた今回のテーマは「強く・気高く・美しく」。この日に向けて準備を重ねてきた候補者4名の中から、見事グランプリを勝ち取ったのは教育文化学部4年の石井春香さんだ。

最後に言われたのは華やかなドレスを身にまとったプレゼンテーションだ。「私と秋田大学」ということで、それぞれが大学での思い出や夢を語った。その後の写真撮影でも観客や友人に取り囲まれていた。人前に出るのが苦手だったという石井さんだが、友人のすすめもあって出場を決意した。出場して石井さんは「多くの人にあなたを誇ってほしい」と感謝の気持ちを語った。4月からは、千葉の医療施設で夢であった保育士として働く彼女。次のステージでも輝くことを期待したい。

(濱田 俊太郎)

第5回ミスコン出場者・スタッフ募集!!

～出場者募集要項～

- 秋田大学所属の1～4年生の女性
- 他薦・自薦問わず(他薦の場合は、必ず本人の同意を得ること)
- ミス秋大1名、準ミス1名を選出。
- 豪華副賞あり。(昨年は旅行券10万円分)

期日・連絡先: 8月末日までに、aup@live.jpまで。

企画・運営を手伝ってくれる方を募集しています! あなたの力をお待ちしております。aup@live.jpまでご連絡ください。

編集後記

まだまだ朝、布団から出るのに厳しい寒さが続いているが、暦の上では一足早く春を迎えた。春。出会いと別れの季節だ。

数少ない分、載せる記事を決める編集会議は難航する。毎回、大学図書館の会議室で、ああでもない、こうでもない話であらう。本当は、どれもこれも載せたいのだが、紙面は限られている。限られた紙面の中で何を読者に伝えたいか、メンバー一同白熱した議論を交わす。時にぶつかることがあっても、私はその時間が好きだった。このメンバーで新聞を作るのはこれで最後になる。寂しい反面、後輩たちがつくっていくこれからのAUPを読むのが今から楽しみで仕方がない。

(菅原 成美)